

## 平成16年度 第2回豊田市生涯学習審議会 会議録

- 【日時】 平成16年8月25日(水) 午前10時から正午まで
- 【場所】 豊田市役所 教育委員会議室(西庁舎8階)
- 【出席者】 (委員) 柴田富信(学識経験者) 会長  
北川吉久(学識経験者) 副会長  
大岩つた江(豊田商工会議所女性会会長)  
釘宮順子(子育て支援グループ代表)  
後藤冷子(青少年健全育成推進協議会代表)  
斉藤秀平(愛知県教育大学教授)  
酒井住雄(学識経験者)  
寺田 進(区長会理事)  
平松 猛(市民公募委員)  
松山美重子(小中校長会会長)  
森 務(市民公募委員)  
吉永チズ子(交流館長代表)
- (関係各課) 自治振興課 加藤武男  
市民活動センター 水野孝一  
世代交流課 小野修市  
子ども課 藤村信治  
学校教育課 山田光夫(代理)  
文化振興課 近藤卓也(代理)  
図書館 近藤範之
- (事務局) 生涯学習課長 水野孝之  
係長 倉地康夫  
主査 加藤達志

- 【次第】 1 新任委員委嘱状伝達  
2 教育委員会あいさつ  
3 会長あいさつ  
4 議題  
(1) 「生涯学習システム機構のあり方」答申書素案について  
(2) その他  
5 報告  
6 連絡事項

## 【議事の摘要】

### 1 新任委員委嘱状伝達

- ・ 区長会の役員交代に伴い、板倉委員の後任として寺田進委員が就任し、水野生涯学習課長から委嘱状が手渡された。

### 2 教育委員会あいさつ（生涯学習課長）

- ・ 委員の皆さんからご意見をうかがい、答申書素案として形が整ってきた。本日はこの素案をもとにご意見をいただき、できれば11月に答申していきたい。

### 3 会長あいさつ

- ・ ようやく答申書素案としてたたき台ができた。今日はそれをもとに活発なご意見をいただきたい。今後は答申書にもとづき、生涯学習システム機構という新たな組織をつくり、豊田市の生涯学習を遂行していきたい。

## 4 議 題

### (1) 「生涯学習システム機構のあり方」答申書素案について

事務局 : (資料説明)

会 長 : 全体を通して、意見、質問、感想をお聞きしたい。

委員 A : 色々と網羅されており良いと思う。14ページに「子育て支援総合センター」とあるが、「子育て総合支援センター」の間違いである。

委員 B : 全体的な流れは良いと思う。生涯学習部門が社会部自治振興課から教育委員会に移管したことは画期的なことであるため、それを生かしてほしい。

委員 C : 細かいところまで検討されていると思う。いくつか入れていただきたいところがあるので、改めて事務局にお伝えしたい。

委員 D : 組織の必要性はわかるが、組織をつくるだけでなく、市民の意識付けとインフラ整備が必要である。現段階で踏み込んだ話をしないと、後は組織におまかせというのでは無理がある。

委員 E : 答申書であれば、「はじめに」の部分で、市の生涯学習の目指すべきところを語る必要がある。例えば、市民、行政、企業が三位一体で生涯学習を行うことなどを色濃く出したらどうか。また3ページの3(1)にある「生涯学習課」は「生涯学習」に修正した方がよい。

委員 F : 11ページにある研究プロジェクト4及び5は、以前の資料にあったか。

委員 G : 委員 E が指摘された3ページの「生涯学習課」は私も気になった。またコミュニティセンターと交流館の連携は、情報交換レベルなのかそれ以上のこともあるのかがイメージできない。

委員 H : テーマが大きすぎると感じている。11 ページの研究プロジェクトは総括的にまとめているが、どういうふうにとまとまってくるのかがよくわからない。

委員 I : これまで行政、市民団体、交流館などがそれぞれ生涯学習に関することをやっている。それをコントロールするにはどうするかを検討することが教育委員会への答申である。したがってどうしても総花的にならざるを得ず、まずはその枠組みやコントロールの仕方についての議論することとなる。

11 ページにある研究プロジェクトが全てではなく、例えばスポーツについてや子どもの発見と産業との関わりについてなど、生涯学習審議会で課題を検討し、生涯学習システム機構に投げかけることが求められる。また 2 ページの教育委員会組織図では特に関わりの深い部署を囲んだ方がわかりやすい。町村合併における課題についても議論する必要がある。

委員 J : 今回始めて参加したため、十分に内容を議論していないが、交流館の運営をしっかりとってほしいと感じる。

会 長 : 委員 B の意見にあった生涯学習部門の教育委員会への移管については、牧野委員(今回は欠席)がまとめた「市民と行政の共同による生涯学習のために」の 57 ページ以降に詳しく書かれており、この答申書では簡略化している。委員 D のおっしゃるように組織をつくれればよいというわけではない。研究プロジェクトはこれが全てではなく課題の一例を示しただけである。町村合併や産業界との連携についても重要であるが、答申書としてはあまり長くないようにまとめる必要がある。まとめのところで合併、課題解決の例などを入れたい。

委員 K : 生涯学習システム機構は、市民、企業、NPO などの知恵を集積する必要がある。また大学との連携が重要である。

会 長 : 14 ページの生涯学習システム機構の審議は、連絡調整会議を設立して行うが、産業界などにも入っていただき検討したい。

事務局 : 合併についての現状報告をしたい。来年度の社会教育委員は、豊田市から 10 名、6 町村から 1 人ずつの計 16 名としたい。交流館については、社会教育法上の公民館を有するのは藤岡町、小原村、足助町であり、それらは交流館とするが、その他は集会場である。下山村、稲武町では役場の一部を交流館として施設の有効活用を図る。

これまでの答申書は実行していないものが多いため、今回は実効性のあるものにしたい。

自治振興課 : 町村の自治区は、豊田市の標準にあわせ適正規模となるよう検討している。おそらく現在の半分程度になるであろう。コミュニティ活動は、5 年を目処に市並となるよう調整している。

委員 H : 警察署は豊田署と足助署のふたつとなるが、町村合併したらどうなるか。

自治振興課：警察署が検討しており、現状はわからない。

会 長：企業がそのOBに対して生涯学習の支援を行っていることは我々にとってはとても心強い。

委員I：企業の支援活動が、他の企業にも刺激を与えると良い。

委員G：企業のOBの方には、既に交流館で活躍してもらっており、助かっている。

会 長：これから具体的につめていくことになるが、既にシステム機構長に斉藤委員、センター長に牧野委員にお願いし了承を得ている。また市民は参加ではなく参画することが必要だ。

委員F：それぞれの交流館は素晴らしいことをやっているが、他の交流館の情報があまり入ってこない。もっとPRが必要と感じる。

委員E：答申書の要望として、1ページに豊田市の生涯学習の理念を市民にわかりやすく記述してほしい。また1(2)の基本目標はとてもわかりやすいと思うが、キーワードと絡めて記述するとわかりやすい。キーワードのひとつとして「交流」があるが、学校としてどう受け止めていくかが重要であると思う。

委員D：生涯学習の基本は本であり、図書館が重要な役割を担うと思う。ローカル性、本の循環、市民へのPRとアンケートなどによる意見聴取の3つが重要である。

委員J：自治区の活動では、ごみ、迷惑駐車、犬の糞などの問題があり、企業のOBの方には地域にかえって、こうした地域の課題解決に協力していただきたい。

委員C：一市民として考えると、健康づくりなど高齢者の生きがいづくりやごみの減量といった保健衛生や環境問題も含めて考えてほしい。

委員B：14ページにあるように動ける組織とすることがとても重要である。機能しなければ意味がない。この後に具体例があるとわかりやすい。また企業OBの方には会社で培ったものを社会に還元してほしい。

委員A：生涯学習の施設として、交流館のみならず、ヤングオールドサポートセンター、市民活動センター、子育て総合支援センターなどの活用も望まれる。また低年齢層から交流館と関わりをもつと、敷居が低いと感じ、利用者も増えると思う。

委員H：最初の頃に比べるとかなり整理されてきた。11ページの研究プロジェクトはいくつもあるが、こんなにできるのか。

委員I：生涯学習システム機構は、調整機能だけでなく、市民ニーズの把握や、審議会からの提言を受け活動し、市民にわかりやすいものにしたい。

委員K：生涯学習システム機構が立ち上がった時には、審議会の委員の方も研究プロジェクトに参加し、自分の課題として受け止めていただきたい。

会 長：これまでは計画・立案されても実践されていないことが多いため、実効性

のあるものにしたい。

事務局 : 今日出された意見を踏まえ、必要性やメリットをわかりやすく記述したい。

会 長 : 最後にまとめの資料が必要ではないか。

事務局 : 斉藤委員、牧野委員のご指導いただきながら、表現方法などを考えていきたい。

会 長 : 答申書のまとめを行うにあたり、審議会の委員の中から4、5人選ばせていただき作業を進めたい。選出は会長に一任してほしい。

事務局 : 本日の意見を踏まえ、11月の答申に向け作業を進めたい。

(2) その他

特になし

5 報告

特になし

6 連絡事項

- ・ 次回は10月中旬頃開催